

## 「先生になりたい」と思える学校にしたい

### 「3分でも5分でも正確に勤務時間の記録を」 それが業務改善につながる



以前は「将来になりたい職業」の上位にいつもランクされていた教員。しかし教員採用試験の倍率は年々下がり続け、昨年は中学校 3.5 倍、小学校 2.2 倍でした。SNS の普及で教員のブラックな働き方が世間に広く知られるようになってきたことと連動しているように思います。組合のアンケート調査でも仕事にやりがいを感じながらも、健康上の理由などから続けていく自信がないという声が聞かれます。

「働き方改革」の取組で、確かに教員の業務は精選され超過勤務は減少してきました。しかし超過勤務「月45時間（1日2時間）」を超えないようにするためには、本来やりがいを感じる仕事も削るしかないようなところまできているように思います。7月30日の組合連の県教委交渉で、新型コロナ対応で業務が増えている上、「月45時間」を守ることを強要され、正確な打刻をしない実態を訴えました。教職員課長は「3分、5分超でも正確に記録してほしい、それを業務改善につなげる」と言いました。

### 「1年単位の變形労働時間制」は「働き方改革」に逆行！ 導入反対の署名にご協力を！

部活があれば勤務時間を越えてしまいます。部活をするかどうかは顧問が決められますが、会議は違います。勤務時間外に会議を持ち、教職員に参加を強いることは認められていません。職員会議は「超勤4項目」（特別に超勤が認められる項目）の1つですが、「臨時又は緊急のやむを得ない必要があるとき」に限られます。

しかし、「1年単位の變形労働時間制」が導入されれば可能になります。例えば「8時15分～18時15分」の勤務時間が可能になるからです。つまり「部活で18時に生徒下校、その後に打ち合わせ」が認められることになるのです。これは、「働き方改革」に逆行します。

### 県教委「1年単位の變形労働制導入へ検討」！？

【7月30日 県教委交渉にて】

先日の県教委交渉で、教育委員会は1年単位の變形労働時間制の導入検討を明言しました。最短だと、9月の県議会で「1年単位の變形労働時間制」を導入するための条例制定が審議されます。時間がありません。ぜひ、反対署名にご協力ください。署名欄は全部埋まっていなくても結構です。



名古屋大准教授の内田良さん監修のマンガです。岐阜の状況とは若干異なりますが、中学校教員の勤務実態をよく表しています。教員でない人にこそ読んでほしい本です。